

令和7年 3月10日

足立区立弘道第一小学校
校長 鈴木 秀明 様

足立区立弘道第一小学校
開かれた学校づくり協議会

令和6年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

重点的な取組事項－1 児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着
達成度●（達成せず）

4月に実施した区学力調査結果では、通過率（目標値を上回る児童の割合）が国語で72.7%、算数で66.9%であった。学年によって結果に大きな隔たりがあることが主な要因であるが、残念ながら今年度目標の80%まで10ポイント及ばない結果となった。弘一タイムや学年独自の学力向上の取組などはつまずきの解消に役立ってはいるが、年に一回の学力調査結果だけではなく、日常の単元末テスト結果などから日々の授業づくりや指導方法の工夫・改善を尚一層充実していただきたい。次年度は学習母体である各学級の子供たちの状況を確認しながら、積極的な改善にあたる新たな取組にも期待していきたい。一方で、児童の学習意識調査によると「宿題がないときでも家で勉強する」の肯定的回答割合が55.9%と区の60.4%と低い値を示している。学力向上は学校ばかりでなく家庭からの協力や意識の向上もまた求められるところである。

重点的な取組事項－2 「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止
達成度◎（十分に達成）

学級集団における児童一人一人の状態を把握できるQ U調査（学校生活における児童個々の意欲や満足感、および学級集団の状態を質問紙によって測定する調査）によると、「学級生活満足群」に所属する児童の割合が年間平均で49%であった。これは全国平均の43%を大きく上回る結果であり、日頃の道德教育の充実や教師の人権感覚を高める取組、いじめ対策委員会による取組、思いやりの心を育成するために学校全体で取り組んでいる「あいさつ運動」や「言葉遣い重点週間」などの成果であると考ええる。特に今年度は、道德授業地区公開講座の機会を通じて何気ない毎日の生活の中にある「当たり前」の大切さについて全校児童で学んでおり、その学びを学習発表会で他学年児童や保護者・地域の方々に発信することにより、より一層心の教育の充実に努めていた点が印象的であった。

また昨年度過去最多を記録した不登校問題であるが、登校しぶりや教室での生活が困難な児童については本校でも決して例外ではない。本校では児童の状況やその心に寄り添った校内体制を確立すべく、東京都の校内別室指導支援員配置事業を積極的に活用し、登校サポーターの協力を得ながら不登校支援に取り組んでいるとのことである。

重点的な取組事項－３ 児童一人一人の体力の向上

達成度◎（十分に達成）

過去２年間、５月に実施する体力状況調査での結果において、全国平均を上回る種目数が全体の２割ほどに留まってしまうという大きな継続課題があった。低学年を中心とした体力低下の傾向が顕著に見られるなど、３年間に及ぶコロナ禍での影響は現在も続いているものと考えられる。これまで学校では体育の授業だけではなく外遊びの推奨など、遊びの中での体力向上に取り組んでもらっているが、今年度は調査種目についての事前学習や練習を行ったとのことである。結果として、全国平均を上回る種目数が倍増したことで全体の４割を占めるところまで回復することができた。学習ノートを利用した授業の実施率も昨年の６８％から今年は７９％と向上しており、引き続き子供たちに「できる経験」と「やり遂げる自信」を与えながら体力向上に取り組んでいきたい。

２ 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

年度当初に示された３つの重点的な取組事項に対する前年度の課題は、それぞれに対する改善に向けた取組により、学習面を除く２つの事項（徳育・体育）について良好な成果を上げることができたと考える。また学校評価アンケートに寄せられた意見からは、昨年度と変わることなく全体の８割以上の肯定的回答が得られ、今年度も保護者・地域より一定の望ましい評価をいただけることとなった。

しかしながら、一つの学級の一部児童による集団生活や授業時の乱れが見られ、年度内の大きな課題となっていた。この事態に対して管理職をはじめとする学校の教職員や該当学年保護者とともに、開かれた学校づくり協議会委員による見守り等の改善策を約半年間講じていった。結果として事態は少しずつ改善に向かっているが、同時に他児童の別課題が見え始めるなど、引き続き根本的な改善策を施していく必要がある。

弘道第一小学校の校風である「穏やかであたたかな雰囲気」を守り続けるために、今後将来的に新たな課題が生じた際にも、学校・保護者・地域が尚一層の協働を図りながら、改善に向けて取り組んでいきたい。

３ その他

平成２５年９月から始まった廃品回収の収益金による漢字検定全員受検は定着し、今年度も２～６年生全員に家庭の負担無く実施でき、開かれた学校づくり協議会がＰＴＡと協力し、地域の皆様と取り組んできた成果である。開かれた学校づくり協議会としては、保護者、地域の皆様と連携を深めて廃品回収に取り組み、学校との協力のもと、この検定受検の取組みを今後も是非、継続、発展させていきたい。

今年度も「道徳授業地区公開講座」「ＰＴＡ夏祭り」「夏のカレーランチ会」「近隣町会・自治会との夏休みラジオ体操」「新聞ドームづくり」「弘一落語会」「冬のカレーランチ会」など、子供たちのために様々なイベントを実現することができた。これからも開かれた学校づくり協議会は、次年度に迎える開校６０周年に向けて、先生方の日々の教育活動と上手く連携しながら様々な取組を実現させ、弘道第一小学校の子供たちのためにその活動を充実、発展させていきたい。